

礼らいはいは拝はい

令和3年9月27日  
6号



勉学にはげもう ～十月の月間目標～

お釈迦さまのみ教え 正精進より

九月も残すところ四日となりました。次週には体育祭が行われます。コロナ禍の中で、生徒会の皆さんが知恵を出し合い、各クラスの体育委員の協力のもと行われる体育祭、感染対策を十分に行い大いに盛り上がりましょう。

さて、体育祭が終われば2学期の中間考査が目前に迫ってきます。十月の月間目標「勉学にはげもう」の言葉通り、来たるべき中間考査に向けて努力をしてもらいたいと思います。

お釈迦さまが初めて行った説法とされている「八正道（はっしやうどう）」という教えがあります。進路指導室や保健

室、中学生の教室などがある正道館の名前の由来になった「八正道」とは、八つの正しい道、すなわち私たちが生活の中で進んでいくべき八つの道を示されたものです。その中のひとつに、「正精進」という言葉で説かれたものがあります。「正精進」の「正」は「正しい」という意味があり、「精進」は「努力」のことを表しています。つまり「正精進」とは「正しく努力すること」と理解することができます。では、この「正しい努力」はどのように考えれば良いのでしょうか。

「八正道」では、お釈迦さまの教えを信じ、それを生活の中心とする偏りのない考え方を「正」と説いており、結果や損得の方を重要に考えてしまいう身勝手な判断基準による正しさではないとしています。また「精進」とは、他の人や他のことと比較して優劣をつけたり、勝ち負けにとらわれて、そのことだけに一喜一憂したりするのはなく、自分の言葉や行動をふり返り、自分自身を見つめ、自分自身を高めようと努力することを表しています。ですから「正精進」とは、結果や損得に心を振り回される必要のない自分であることに気づき、勉強や部活動にまっすぐ励んでいくことであると考えることもできれば良いと思います。

私たちが何かをするときには、行いそのものや結果に対して評価をしてもらいたい気持ちが出てきます。特に、誰かのための行いであつたり、世間的に良い行いをしたときなどは、そのことを認めてもらいたいとか、ほめてもらいたいと思うものです。その気持ちが強く表れると、知らず知らずのうちに押しつけがましい言動や主張が顔を出してしまいます。そのような気持ちでいるときに、自分の努力や結果が、自分が思っているよりも過小評価されたり、思っていたこととは違う方向に評価されると、腹立ちや怒り、悲しみや迷いの心が芽生えることがあります。さらに悪い状況になれば、評価しない人に向かって「あなたは、なぜ私の思い通りに評価しないのか？」と厳しく当たることさえあります。一方で、自分の明確な目標を立て、その達成に向かつて地道に努力を続けることは必要なことであり、とても大切なことです。その努力が報われないと、とても悲しく悔しい気持ちになります。それは他人と比べて自分の評価を確かめようとする心の働きのあるからではないでしょうか。

正精進とは、結果によつて努力が評価されるのではなく、正しいことに向かつて努力し続けることが大切であるということをお教えているのです。